

## 単元名 詩を作ろう

配当時間 6時間

- 単元の目標 (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。  
 (2) 経験したことや想像したことなどから、書くことを見付けることができる。  
 (3) 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、詩を書こうとする。

## 標準的な展開例

02010306\_001

【教材名】見たこと、かんじたこと (下 P.98～P.99)

【準備等】知多の友

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★詩の書き方を知ろう。</p> <p>○教科書(P.98)の詩を読み、身近な出来事や物事を言葉で表現していることに気付く。</p> <p>○「見たこと、かんじたことを詩に書こう」という学習課題を設定する。</p> <p>2～3 詩の材料を見付ける。 ★詩に書くことを見付けよう。 ○教科書(P.99)を読み、生活の中で心が動いたことを振り返る。 ○見たり聞いたりしたことや、五感で感じたことなどを思い出して書き出す。</p> <p>4～5 これまでに学習した表現の工夫を使って詩を作る。 ★詩を作ってみよう。 ○教科書の三つの詩を参考にしたり、「ようすをあらわすことば」で学習したことを振り返る。</p> <p>○読む人に伝わるよう表現を工夫して、詩を作る。</p> <p>6 作った詩を読み合い、感想を伝え合う。 ★詩を読み合って、よいところを伝え合おう。 ○作った詩をグループの友達と読み合う。 ○詩を読んでよかったところを伝え合う。</p>	<p>・本単元は、「知多の友」に掲載されているので、十分に活用したい。</p> <p>・個人読み、一斉読み、指名読み、交互読みなど、さまざまな音読をさせ、それぞれの詩の特性をつかませる。</p> <p>・知多の友(P.44)の参考作品を活用する。</p> <p>・知多の友(P.45)を活用する。</p> <p>・教科書(P.99)「たいせつ」を読み、イメージを広げやすくする。 【評】詩の題材を見付ける活動を通して、身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で正しく使う「知識・技能」を評価する。</p> <p>・教科書(P.94)やノートから、同じ雨の降り方でも、さまざまな表現ができたことを振り返らせる。</p> <p>・知多の友(P.46～47)を活用する。</p> <p>・様子の表し方を工夫させる。 【評】詩を作る活動を通して、経験したことや想像したことを基に詩を作る「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・完成したら、読み返すようにし、適切に直させる。</p> <p>・絵を描いてもよいことを伝える。</p> <p>【評】詩の交流を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】